

熊本中央病院が担う 役割について

平成 3 0 年 7 月

国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院

1 現状と課題 ～ 当院の理念・方針～

< 理 念 >

質の高い誠実な医療による地域への貢献

< 方 針 >

かかりつけ医を支援し、入院を中心とした急性期医療を提供することで
病院本来の役割を果たします

患者さんを中心とした効果的で効率的な医療サービスを提供します

医学及び医療技術の研鑽に努め、信頼される医療サービスを提供します

1 現状と課題 ~ 政策医療と主な指定 ~

< 政策医療と主な指定 > 第7次熊本県保健医療計画への参画

5疾病

- がん ... 熊本県指定がん診療連携拠点病院
- 脳卒中 ... 脳卒中急性期拠点医療機関
- 心筋梗塞等の心血管疾患 ... 心血管疾患急性期拠点病院/心血管疾患回復期医療機関
- 糖尿病 ... 急性増悪時専門治療医療機関/糖尿病専門機関/
各専門診療医療機関 に該当

5事業

- 救急医療 ... 救急告示病院
- 小児医療 ... 小児地域医療センター（小児専門医療）

その他

- 地域医療支援病院
- 臨床研修指定病院（基幹型/協力型）
- 病院機能評価認定病院（一般病院2 3rdG:Ver1.1）

など

1 現状と課題 ～ 当院の特徴 ～

< 当院の診療上の特徴 > 高度急性期と急性期機能が中心

がん（県指定拠点病院）

- ・前立腺がんや膀胱がん、肺がんの症例数が県内トップクラスである。
- ・乳がんについても、専門医による症例数の増加を図っている。
- ・各種手術や再建術に加え、化学療法、放射線治療、リハビリ、緩和ケアといった集学的治療が同一医療機関内で完結できる体制をとっている。

全身の血管疾患

- ・急性発症への対応に加え、糖尿病や腎臓疾患など前段階からの治療の介入を行っている。
- ・循環器科・心臓血管外科・脳神経外科・形成外科など複数診療科の連携により、全身の血管疾患に対応している。また、バスキュラーアクセスやPDアクセスなどのトラブルについても専門医が対応している。

脊椎・関節領域

- ・合併症を有する複雑性が高い患者の紹介が多い。

他医療機関との連携

- ・毎年1,000施設前後の紹介元の医療機関と、患者の紹介及び逆紹介を行っている。
- ・「くまちゅう画像ネット」を運用し、医療機器の共同利用や放射線診断専門医によるレポートをオンライン上で確認できる環境を提供している。

1 現状と課題 ~ 主な診療実績 ~

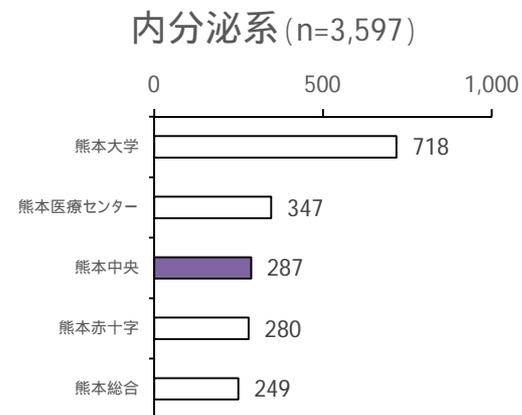
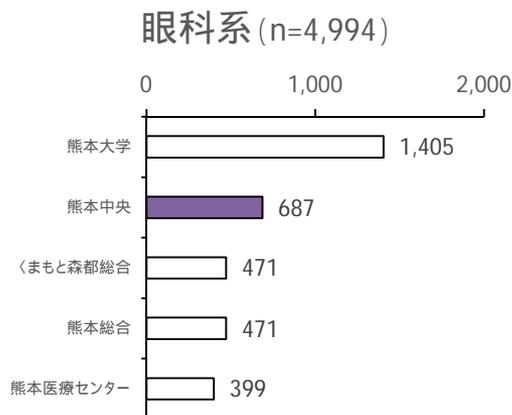
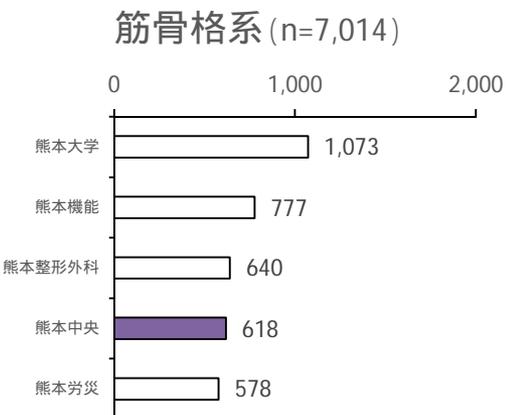
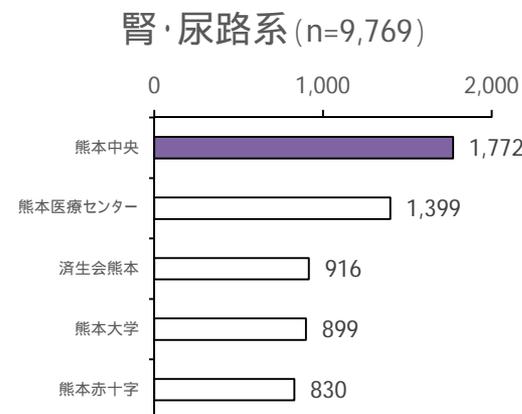
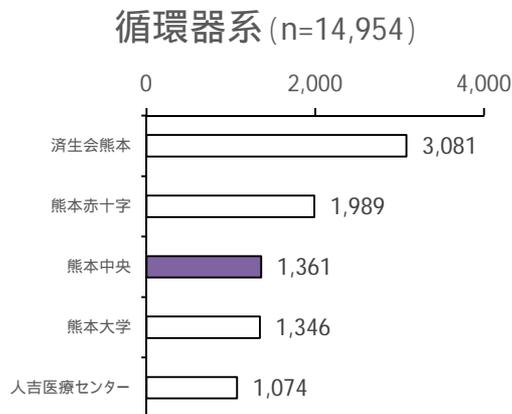
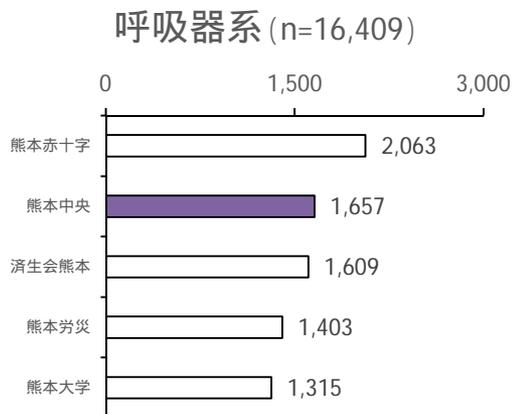
項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
新入院患者数 (人)	8,825	9,494	9,210
入院患者延数 (人)	107,347	110,180	105,796
外来患者延数 (人)	114,759	120,006	120,115
病床稼働率 (%)	81.2	83.6	80.3
平均在院日数 (日)	13.5	12.7	12.5
救急搬送数 (件)	1,190	1,973	1,782
紹介率 (%)	66.0	66.9	70.2
逆紹介率 (%)	107.1	112.5	114.0

1 現状と課題 ~ 主な診療実績 ~

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
CAG (件)	286	358	364
PCI (件)	223	256	342
手術件数 (件)	3,316	3,571	3,516
肺がん (件)	161	155	149
椎弓切除術 (件)	471	492	568
人工関節置換術 (件)	117	102	121
水晶体再建術 (件)	669	693	723
入院透析症例数 (件)	594	706	747
透析導入数 (件)	53	92	98
シャントPTA (件)	151	192	220

1 現状と課題 ~ 主な診療実績 ~

< MDC別医療機関別比較 > 平成28年度DPC「退院患者調査」の結果より

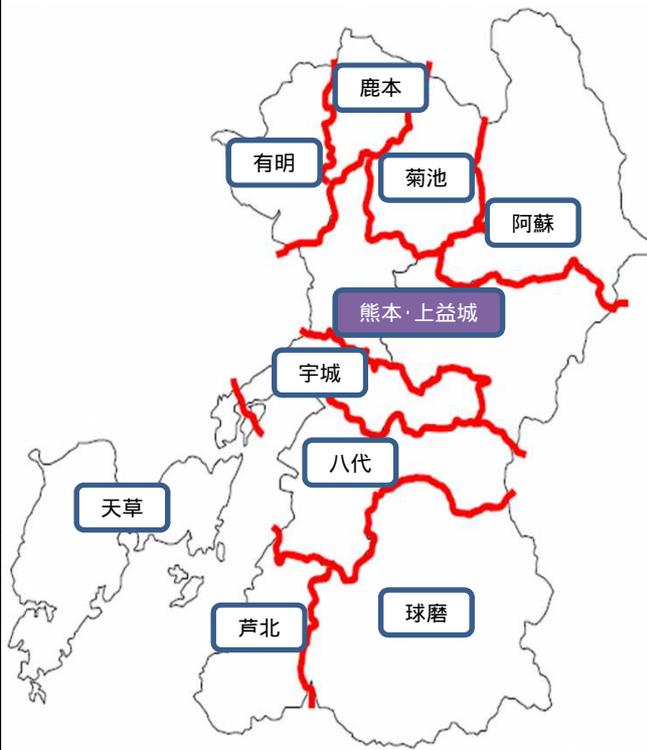


厚労省中医協DPC評価分科会資料 (H30.3.6) 「MDC別医療機関別件数 (割合)」を基に、
 熊本県内の平成28年度 DPC参加病院 32施設を調査対象として作成した

1 現状と課題 ~ 主な診療実績 ~

< 構想区域別入院患者数 >

構想区域	入院患者数	構成比
熊本・上益城	6,299	70.4%
宇城	876	9.8%
有明	171	1.9%
鹿本	150	1.7%
菊池	445	5.0%
阿蘇	248	2.8%
八代	76	0.8%
芦北	42	0.5%
球磨	80	0.9%
天草	337	3.8%
県外	222	2.5%
合計	8,946	100.0%



平成29年度退院患者実績を基に作成した

< 構想区域別紹介件数 >

構想区域	医療機関紹介数	構成比
熊本・上益城	12,213	78.1%
宇城	1,457	9.3%
有明	207	1.3%
鹿本	172	1.1%
菊池	504	3.2%
阿蘇	198	1.3%
八代	62	0.4%
芦北	43	0.3%
球磨	73	0.5%
天草	410	2.6%
県外	293	1.9%
合計	15,632	100.0%

平成29年度紹介患者実績を基に作成した

2 今後の方針 ～ 地域において今後担うべき役割 ～

高度急性期 / 急性期医療への特化

- ・ 当院に求められる役割は、「他の医療機関では対応が困難な疾病や病状に対する質の高い高度急性期 / 専門的医療の提供」にあると考えている。
- ・ 当院が高度急性期 / 専門的医療に特化するためには、医療・介護・福祉施設との更なる連携の推進を図りたい。
- ・ 当院入院患者数の将来推計（スライド16参照）の結果より、2025年に向けて10%を超える入院患者数の増加が見込まれることから、院内運用や他の医療機関との連携体制を見直し、医療需要への対応を行う。
- ・ 今後も合併症を有する難易度の高い症例への対応など地域ニーズに沿った医療提供のほか、医療機器の共同利用等により地域の拠点病院としての役割を果たす。

糖尿病や腎臓疾患を含めた全身の血管疾患への対応強化

- ・ 当院の特徴の一つである血管病領域の診療体制の整備に努め、熊本・上益城構想区域における基幹的な医療機関としての役割を果たす。
- ・ 入院時に透析を必要とする症例数が増加傾向にあるため、透析ベッド数を40床に拡充し、平成30年7月より運用を開始する。

3 具体的な計画 (1)今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	179	179	179
急性期	182	182	182
回復期	0	0	0
慢性期	0	0	0
その他	0	0	0
合計	361	361	361

3 具体的な計画 (1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

高度急性期機能

- ・ 当院は地域において必要とされる診療機能の選択と集中に努め、入院を中心とした高度急性期医療の提供と、全国でも先駆的な病診連携の推進を行ってきた。
- ・ 現在は「がん（肺がん・前立腺がんなど）」「全身の血管疾患（循環器科・心臓血管外科・脳神経外科・形成外科・透析アクセス科などにて対応）」「脊椎・関節領域」を診療機能上の大きな柱としている。
- ・ 県内唯一となるRCU（Respiratory Care Unit：呼吸集中治療室）を運用するなど、今後患者が増加する呼吸器疾患領域において十分な診療体制と実績を有している。

急性期機能

- ・ 当院は地域医療支援病院として、かかりつけ医や地域の中小病院ではフォローが困難な重症化した患者や合併症を有する患者の受け入れを行っている。
- ・ これらの患者群には必ずしも濃厚な治療は必要でないものの、複数の診療科チームによるケアが必要な症例も多い。
- ・ 今後の医療需要の動向を考慮し、当院が地域医療支援病院としての役割を果たし続けるためには、回復期医療につなぐための一般急性期機能を担う病床も必要と考えている。

3 具体的な計画 (1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 診療科の見直し 】

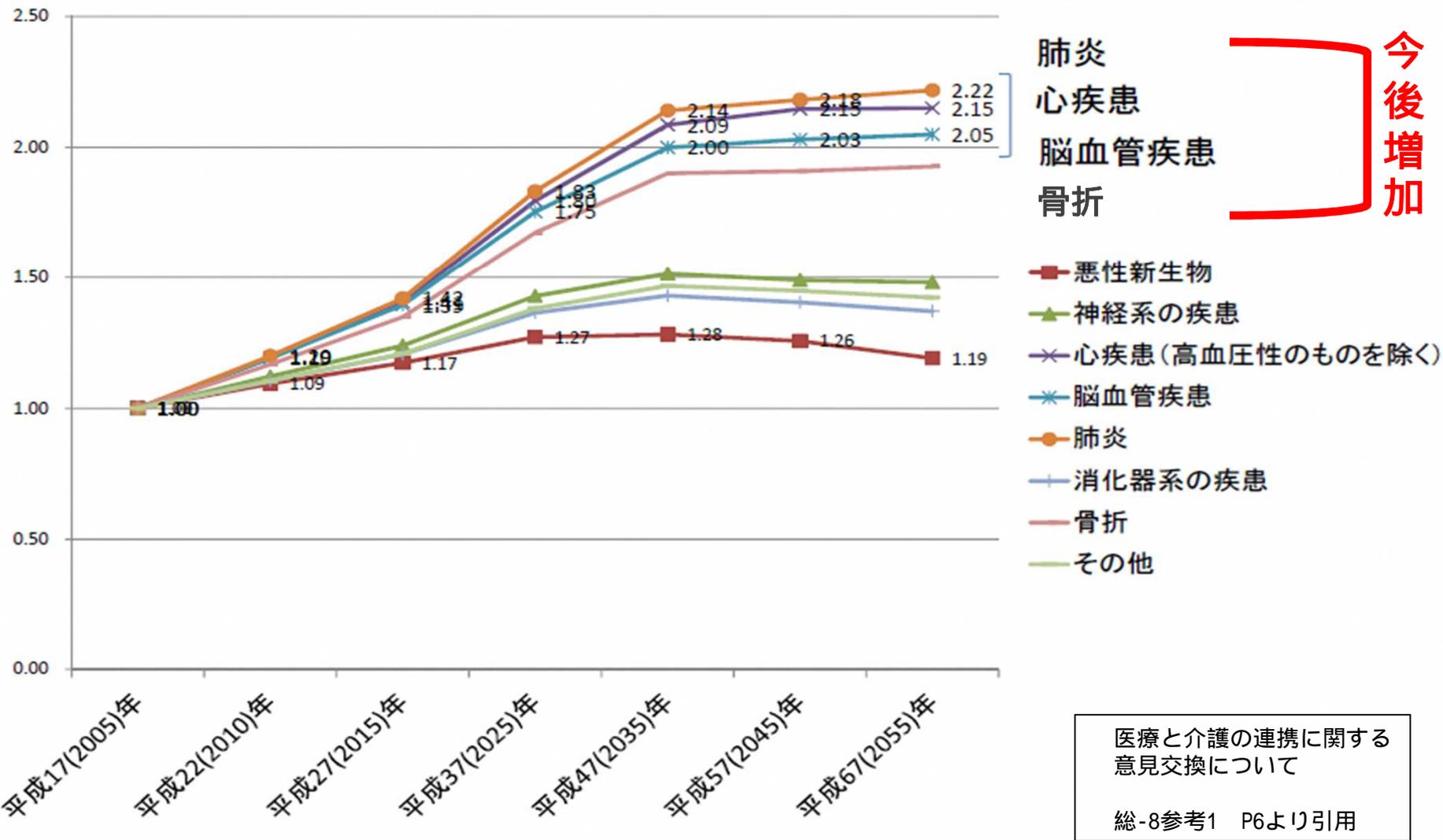
	現時点 (平成30年 7月時点)	2025年	理由・方策
維持	呼吸器内科、呼吸器外科、 消化器科、外科、循環器科、 心臓血管外科、内分泌代謝科、 乳腺・内分泌外科、腎臓科、 透析アクセス科、泌尿器科、 小児科、整形外科、形成外科、 脳神経外科、眼科、麻酔科、 放射線科、腫瘍内科、 緩和ケア内科、救急総合診療科、 病理診断科 休診中：神経内科、皮膚科、精神科	同 左 (25診療科)	地域医療支援病院としての 役割を果たすため、現状の 診療科を維持・向上させる
新設	-	-	-
廃止	-	-	-
変更・統合	-	-	-

3 具体的な計画 (2)数値目標

	現時点 (平成29年度実績)	2025年
病床稼働率	80.3% 81.8% 小児入院医療管理料を算定 する病床を除いた場合	90%
紹介率	70.2%	90%
逆紹介率	114.0%	120%

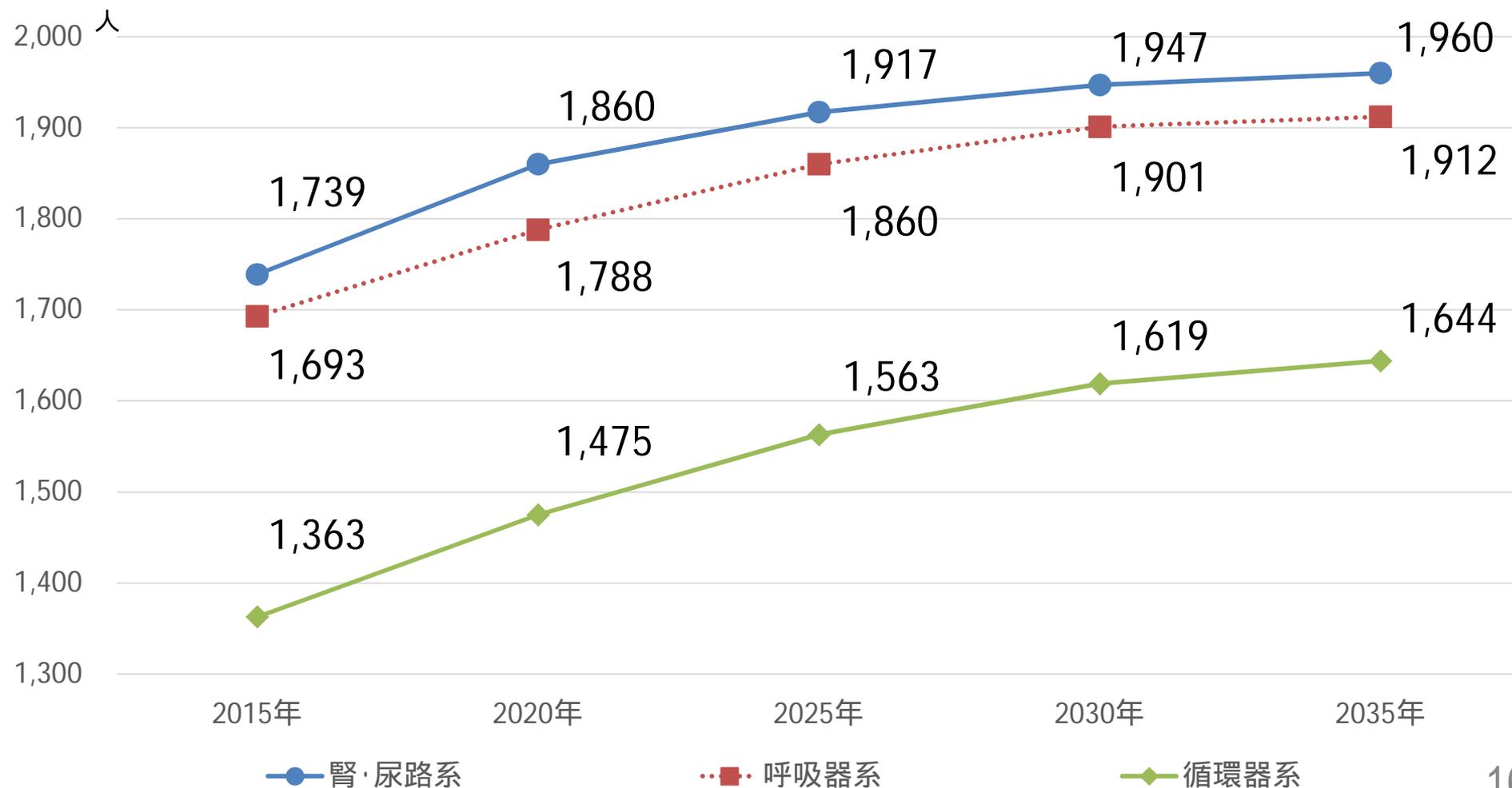
当院は小児腎臓・泌尿器疾患や小児内分泌疾患の拠点病院的役割を担う小児入院医療管理料病床（25床）を有している。当該病棟は少子化時代における役割は大きいものの、季節的変動（夏休み・冬休みに集中）が激しく、稼働率平均は低調となる。以上の特殊性に鑑み、全体の稼働率から小児病床分を除いて再計算した場合、平成29年度の実質的な稼働率は81.8%となる。

入院患者の将来推計② 2005年を1とした場合の増加率



3 具体的な計画 ~ MDC別 当院入院患者数の将来推計 ~

社人研の「日本の地域別将来推計人口（2018）」を基に、「熊本・上益城医療圏」の将来推計を行った場合、当院入院患者数の増加が見込まれる。



【取組みと課題】

病床稼働

- ・ 2025年に向けた医療需要の増加（腎・尿路系、呼吸器系、循環器系など）に対し、高度急性期医療を担う地域の拠点病院としての役割が果たせるよう受け入れ病床の確保を行う。
- ・ 当院ではクリティカルパスの活用や入院時からの退院支援の強化により、早期の退院や転院に向けた取組みを推進している。

紹介率 / 逆紹介率

- ・ 平成27年4月より臓器別診療科の枠にとらわれない救急対応を行うため、「救急総合診療科」を開設した。
- ・ 紹介率 / 逆紹介率のさらなる向上のため、院外に向けた当院の診療機能に関する広報の強化や、医療・介護・福祉施設との連携の推進を行う。
- ・ 特に、紹介された患者が生活する地域においてポストアキュートを担う後方連携医療機関との連携強化が、地域包括ケアシステムの円滑な運用のためにも重要と考えている。